

An impressionistic painting of two football players in purple uniforms. The player in the foreground is wearing a white helmet with purple accents and is holding a football. The player in the background is also in a purple uniform. The painting style is textured and expressive, with visible brushstrokes and a mix of purple, white, and brown tones.

2026年度

給付型助成金志望者募集要項

個人対象

公益財団法人
オービック野田財団
OBInoda Foundation



Player's
Voice

親の負担を気にせず フットボールに集中できています

3 年生に進級する際、弟の大学入学で学費が倍になったこと、父が定年退職を迎える年であったこともありオービック野田財団の助成金の公募に応募しました。

助成金は学費だけでなく、治療代やテーピング代に活用しています。以前は怪我のケアを自分ですることが多かったですが、今は整骨院に通い先生に診てもらっています。昨年大きな怪我をした際も、治療とリハビリをしっかり受けることができたので、早期復帰につながりました。

1、2年生の頃は仕送りに加えて、治療代や増量のための食費を親にお願いするのが心苦しく、「もう少しサポートしてほしい」と伝えられないこともありました。助成金をいただいている今は、親への負担を気にせず、フットボールに集中できています。

今年、悔いの残らない結果を残すことはもちろんですが、将来、フットボールを通じて他の人にいい影響を与えられる人間になることを目指しています。それが、オービック野田財団から受けているサポートへの恩返しになるとと思っています。

星野 秀太
(2024年度より受給)

関西学院大学4年。小学1年生の頃から、オービックシーガルズジュニアでフラッグフットボールをはじめ、足立学園中学校でフットボールを始める。関西学院大学では1年時からQBとして先発出場し、2年時は甲子園ボウルでMVPIに輝いた。



Player's
Voice

大好きなフットボールに 集中できる幸せをいただいています

大 学進学時に、「フットボールに全力を注げる環境を作りたい」と考えて、オービック野田財団の助成金に応募しました。助成金をいただいているおかげでオフの日もアルバイトをせずにトレーニングやケアなど、自分のパフォーマンスを高める時間に充てることができています。

助成金はパーソナルトレーニングと体のケアに使っています。正しい体の使い方を学び、どうプレーに結びつけるかを追求しています。

フットボールを通じて、どんな環境にも適応する力が身につきました。試合では、リードしている時もあれば劣勢の時もあり、フィールドポジションや残り時間など、同じシチュエーションは一つとしてありません。その都度、仲間とどう戦うかを考えて乗り越えてきた経験が、自分の糧となっています。フットボールはスポーツであると同時に、人生を学ぶ場であると思っています。

選手としての目標は、4年間で立教大学を甲子園ボウル優勝に導くことです。プレーで結果を残し、1年目から「関東のナンバーワンQB」と言われるよう全力を尽くします。

中川 龍之介
(2025年度より受給)

立教大学1年。立教小学校でフラッグフットボールをはじめ。中学時代はオービックシーガルズジュニアで関東大会優勝を経験。立教新座高校では1年時から先発出場し、2022年と2024年の地区制覇に貢献した。立教大学でもルーキーながら先発QBとして攻撃を牽引している。



Player's
Voice

自分に甘えず努力を 積み重ねることができます

大 学1年時に、助成金を受けていた先輩から「試合も出ているし、応募してみたら？」とアドバイスをいただいたことが応募のきっかけです。

助成金のおかげで、サプリメントやプロテインにこだわるできるようになりました。フィジカル不足が課題だったのですがトレーニングにも励み、1年前よりも体重を10キロ増やし、ベンチプレスも85キロから115キロまで伸ばすことができました。

用具についても以前はできるだけお金をかけないように、お下がりのグローブや、ポイントが取れているスパイクを使っていたので、ブレイクがうまく踏めなかったり、怪我をしてしまったりするリスクがありました。今は助成金があるので消耗品の購入に充てることができています。

毎月、財団へ報告書を提出しています。「内容のある報告書を書かなくては」といういい意味でのプレッシャーが練習やトレーニングのモチベーションにもなっています。

目標は甲子園ボウル2連覇に貢献することです。フットボール選手である自分を応援していたに、フットボールに貢献することで恩返しをしたいと思っています。

藤岡 昂汰
(2024年度より受給)

立命館大学3年。箕面自由学園高校からフットボールを始め、3年時にはハドルマガジンハイスクールオールジャパンに選出された。立命館大学では1年時から先発出場。今季は甲子園ボウル2連覇を目指す。



Player's
Voice

助成金をいただいている責任感が 自分を奮い立たせる糧になっています

大学進学時にオービック野田財団の存在を知りました。母子家庭で育ったため、「母に負担をかけたくない」という思いで応募しました。助成金は毎月の部費や遠征費、補食代、テーピング代に使わせていただいています。

毎月、オービック野田財団へは活動報告書を提出しますが、自分を見つめ直す良い機会となっています。誰もが助成金をもらえるわけではないので、「活躍して期待に応えたい」という責任感が生まれ、しんどい時に自分を奮い立たせるモチベーションになっています。

昨年は助成金を受けている選手同士の会食があり、普段交流のない他校のトッププレーヤーと交流することができました。「彼らに追いつき、追い越さなければ」という刺激を強く受けた機会でした。

母はフットボールを始めた時に「あなたがやりたいことを応援する。その代わり、やりきりなさい」と言ってくれました。その思いを裏切るわけにはいきません。今季はレシーバーとしてビッグプレーを起こし、チームに貢献したいです。

平泉 七都
(2024年度より受給)

法政大学2年。日本大学第三高校からフットボールを始める。高校時代から187センチ90キロのサイズを武器にWRとDEを兼任し、全国大会出場に貢献。法政大学では今季からローテーションで出場を果たしている。



Player's
Voice

助成金のおかげで 万全のコンディションを作れています

助成金をいただくまでは、経済的に厳しい生活を送っていました。授業や部活動の後にアルバイトをし、帰宅は夜23時ごろ。翌日は1限から授業を受けるため、睡眠時間を削らなくてはならない日もありました。

星谷直貴ヘッドコーチ兼攻撃コーディネーターから助成金の存在を教えていただき、現在では金銭面でも生活リズムの面でも余裕を持って、フットボールに取り組んでいます。

助成金は、遠征費や合宿費、月々の部費、スパイクなどの消耗品、そして食費に充てています。プロテインやサプリメントを購入したり、トレーニングジムにも通うことができるようになり、体重を10キロ増やすことができました。

将来はXリーグでプレーしたいです。チームでは「北陸圧倒」を目標に掲げています。

今年こそは北陸で圧倒的に勝てるまで力をつけ、その先の全国レベルへと近づいていきたいと考えています。私自身も、全国レベルの選手に成長することで、応援してくださっているオービック野田財団へ恩返ししたいです。

小林 史
(2024年度より受給)

福井県立大学経済学部経済学科4年。中学校、高校ではラグビーを経験し、福井県立大学からフットボールを始める。大学1年時からOL/DLとして先発出場。186センチ110キロの体格を生かした絶対的なパワーと妥協を許さない性格を武器に、今季はワイルダズの副将を務める。



Player's
Voice

渡米して上のレベルを知る 貴重な経験ができました

大学卒業後にキッカーとして米国に挑戦したいという思いがあります。今年3月にKニック・ノヴァク(元ロサンゼルス・チャージャーズ)がサンディエゴで主催するコンパインに、助成金を活用して参加することができました。キック成功率に課題があること、どんな距離や状況でも同じフォームで蹴る「再現性」を磨く必要があると学びました。同時に、より高いレベルを知り、自分の視度を上げるといった点においても貴重な機会になりました。

将来の夢は、日本人初のNFL選手になることです。そのために、まずは大学界で圧倒的な結果を残すことが必要だと考えています。同時にNFLインターナショナル・プレーヤー・パスウェイ(IPP)への挑戦も視野に入れています。

オービック野田財団のサポートによって資金面の心配をすることなく渡米することができ、将来につながる貴重な経験ができたことにとっても感謝しています。その成果を結果として残すことで恩返しをしたいと思っています。

中井 慎之祐
(2025年度より受給)

関西大学4年。小学校から高校までのサッカー経験を生かしてKとPを務める。昨季はPAT成功率100パーセント(21/21)、FG9回中7回成功(最長47ヤード)、42得点で関西学生2位のスコアリングキックを記録。2024年関西学生ベスト11に選出された。

募集要項

給付対象

日本国内の大学に在学し、スポーツを積極的に行う学生で、スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与し、他の範となることができる者。

対象スポーツ種目

アメリカンフットボール

応募資格

給付期間(2026年4月1日～2027年3月31日)において、以下の該当項目を満たしていること。

1. 上記給付期間において大学生であること
2. 専攻するスポーツ種目において、自他ともに認める力量を有していること
3. チームスポーツにおいては、大学または社会人等のチーム(部)に所属している競技者であること
4. 申請時に満25歳未満であること
5. 留年をしていないこと

給付金額

給付期間は給付取消に抵触しない限り大学卒業までとし、給付金額は次のとおりとする。年間72万円を前期と後期の2回に分けて給付する。(返済義務がない給付型)

◎前期分給付 36万円(5月末頃予定)

◎後期分給付 36万円(11月末頃予定)

上記応募資格を喪失した場合、また当財団の助成金の廃止要件に該当した場合、助成金の廃止および返還請求を行うことがある。

採用人数

20名程度

申請手続

公益財団法人オービック野田財団サイト内、エントリーフォームからプレエントリーを行うこと。プレエントリー完了後、下記の書類を申請期限までに事務局宛に送付すること。なお、申請書類は返却しない。

1. 助成金給付願書(個人)(指定書式)
2. 在学学校長等の推薦書(指定書式)
3. 指導教授、指導者または協会等からの推薦書(指定書式)
4. 成績証明書(発行できる最新のもの)
5. 住民票(家族全員でマイナンバー無し、3ヶ月以内のもの)
6. (一次選考合格者のみ)扶養者の所得証明書

申請期間と給付決定予定

◎申請期間 2025年11月1日～2026年1月31日(当日消印有効)

◎給付決定 2026年3月末日予定

なお、給付決定後、入学または進学ができなかった場合については、給付を取り消す。

選考と結果通知

1. 一次および二次選考は選考委員会で行い、最終選考は3月下旬予定の理事会にて決定する
2. 一次選考は書類審査を行い、可否については通過者のみ連絡する
3. 二次選考は面接を行う
4. 最終選考は二次選考結果をもとに理事会で行い、結果については全員に連絡する
5. 給付が決定した場合は、4月時点の在学証明書および財団指定の振込依頼書を事務局宛に送付すること
6. 給付後、毎月(5日締切にて)活動報告書兼使途報告書を提出すること

選考基準

1. 心身ともに健康である者
2. 学業に意欲があり、確実に修了できる見込みがあると認められる者
3. 特定のスポーツにおいて、特にすぐれた資質、能力があると認められる者
4. 経済的な支援を必要とする者
5. 定期的に連絡が行える者(月次報告提出および電話・メールにて連絡が取れること)

その他

1. 給付が決定した場合、当財団関連の印刷物・ホームページで氏名等を公表する場合がある
2. 在学からの問い合わせには、選考内容以外について回答を行う。また当財団から在学へ問い合わせを行うことがある
3. 申請書類上の個人情報については、当助成金対象者の選考以外に使われることはない
4. 助成対象者が学業を修了した後の進路に制約は設けない
5. 財団主体の助成対象者交流会を年1回程度開催する
6. 給付後、当財団の規定に則して、助成金の停止もしくは廃止をする場合がある

願書記入・作成上の注意

1. 助成金給付願書(個人)は必ず本人が直筆にて記入すること(保護者または身元保証人欄を除く)
※諸事情により日本語での記入に問題がある場合には、事務局へ相談のこと
2. 願書および推薦書の両面印刷は不可
3. 給付時の金融機関口座は、必ず本人の口座を指定のこと(本人名義以外の口座への入金が行わない)

詳しくは、当財団のホームページにてご確認ください。

財団概要

◎設立 2017年1月11日

◎公益法人認定 2018年3月8日

◎主務官庁 内閣府

◎代表者 理事長 野田順弘

◎目的および事業

スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において、経済的支援を行うことにより、わが国の発展に資することを目的とします。この目的を達成するために次の事業を行います。

1. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において活動する学生及び団体に対する経済的支援

2. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野における研究事業に対する経済的支援

3. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

お問い合わせ・願書送付先

公益財団法人
オービック野田財団 事務局

〒104-8328
東京都中央区京橋2-4-15 オービックビル内

TEL : 03-3548-0012
FAX : 03-3548-0013

(※電話受付時間：平日11時～16時／土日祝日休み)

E-mail : zaidan@obic.co.jp

スマートフォンからのアクセスはこちら



Web : <https://obicnoda-zaidan.jp/>